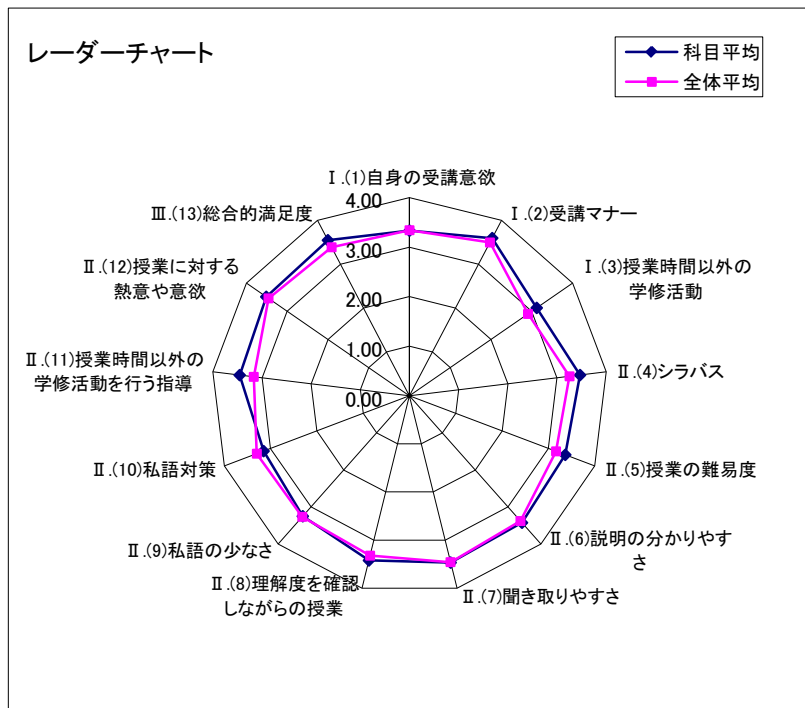
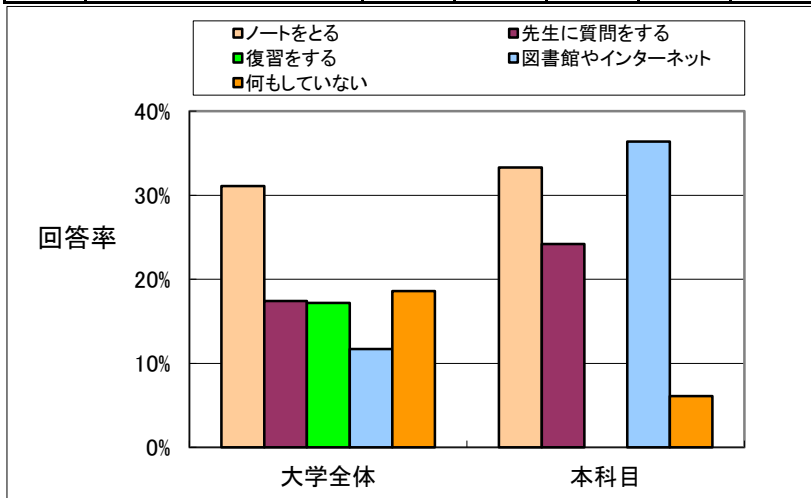


講義科目 授業アンケート結果



※レーダーチャートの平均は4段階評価 4(そう思う)、3(ややそう思う)、2(あまりそう思わない)、1(そう思わない)

〈※複数選択可項目〉	ノートをとる	先生に質問する	復習をする	図書館やインターネット	何もしていない
IV.(14) 授業を理解するための工夫	33.3	24.2	0.0	36.4	6.1



	設問No.	科目平均	全体平均
自身の受講姿勢	I.(1)	3.33	3.34
	I.(2)	3.59	3.49
	I.(3)	3.12	2.91
講義内容・方法	II.(4)	3.47	3.26
	II.(5)	3.36	3.16
	II.(6)	3.42	3.38
	II.(7)	3.47	3.46
	II.(8)	3.42	3.32
	II.(9)	3.25	3.27
	II.(10)	3.15	3.30
	II.(11)	3.45	3.17
	II.(12)	3.52	3.46
	総合評価	III.(13)	3.55

	本科目平均	全体平均
自身の受講姿勢	3.35	3.25
I.(1)~(3)		
講義内容・方法	3.39	3.31
II.(4)~(12)		
総合評価	3.55	3.39
III.(13)		

アンケート結果に対する教員のフィードバックシート

授業年度	2012年度 後期
時間割番号	3405
科目名	日本人の労働を考える
教員名	

①授業計画の達成度について

シラバスとテキストに従って授業を進めたので、ほぼ予定どおり計画を達成することができた。難易度についてもおおむね好評ではあるが、ひとりだけ2点の学生がいる。大教室での講義であるので全学生に適合する授業というのは難しいが、少なくとも興味を持って、ちょっと難しいけれど面白いと思えるように工夫する余地はまだある。自由記述欄にもあったようにプリントは好評であったので、詳細はプリントに任せて、本質的に重要だと思われる部分だけを集中的に話をすることもできるかもしれない。よりよいプリントの活用をすすめたい。

②授業の進め方について

唯一全体平均を下回るのが私語についてである。1年次生向けの大教室での講義ということが影響しているとは思いますが、この項目に関しては毎年評価が低く、頭を悩ますところである。またこのアンケートにはあらわれないが、出席率、および遅刻、早退率も問題である。せっかく注意を繰り返して、静かになったところで遅刻者が入ってくると再び空気が乱れ、注意を受けた学生が退出してしまうなど、難しい。昨年度うまくいった方法が今年ほううまくいかないなど、一筋縄ではいかない。私語以外の項目については平均を超えた評価であるが、意欲という点で最も高い評価がついているのは率直にうれしい。私は決して教え方がうまく、優秀な教員ではないが、意欲に関しては人後に落ちまいと努力している。学生はみるべきところは見ていると思う。

③アンケート全体を通しての自己評価、及び、今後の授業改善計画について

学内平均を相当上回っているとはいえ、私が担当しているもう一つの講義科目である日本経済史に比べると全体的に評価が低い。大教室での講義をどうやってひとり一人の学生の心に響かせるかが課題である。レポートの課題を出したことによってそれなりのコミュニケーションがとれたと思うが、それに割いた労力に見合うかどうかは疑問である。大学全体のシステムの整備も必要であるが、より双方向のコミュニケーションを効率的にとれるよう、ネット上に授業用掲示板を設置するなどしたい。